

令和6年度版
千曲市公共施設個別施設計画

レクリエーション施設編①

(生涯学習課所管施設)



令和6年3月
長野県千曲市

— 目 次 —

1. 計画策定の背景、目的と位置付け	
(1) 計画策定の背景と目的	1
(2) 計画の位置付け	1
2. 計画対象施設、計画期間	
(1) 対象施設	2
(2) 計画期間	2
3. 計画対象施設を取り巻く現状と課題	3
4. 対策の優先順位の考え方と施設評価	
(1) 優先順位の考え方	4
(2) 施設評価	4
5. 個別施設の状態等（基礎調査）	
(1) 劣化度・老朽化度調査	4
6. 対策内容と実施時期（実施計画）	
(1) 再配置に関する基本方針	6
(2) 保全に関する基本方針	6
(3) 工程表	7
(4) 対策費用	8
7. 今後の対応方針と本計画の実現に向けて	8

1. 計画策定の背景、目的と位置付け

(1) 計画策定の背景と目的

公共施設等の長寿命化対策については、平成 25 年 11 月に国において「インフラ長寿命化基本計画」が策定され、平成 26 年 4 月に地方公共団体においても公共施設等総合管理計画を策定するよう求められました。

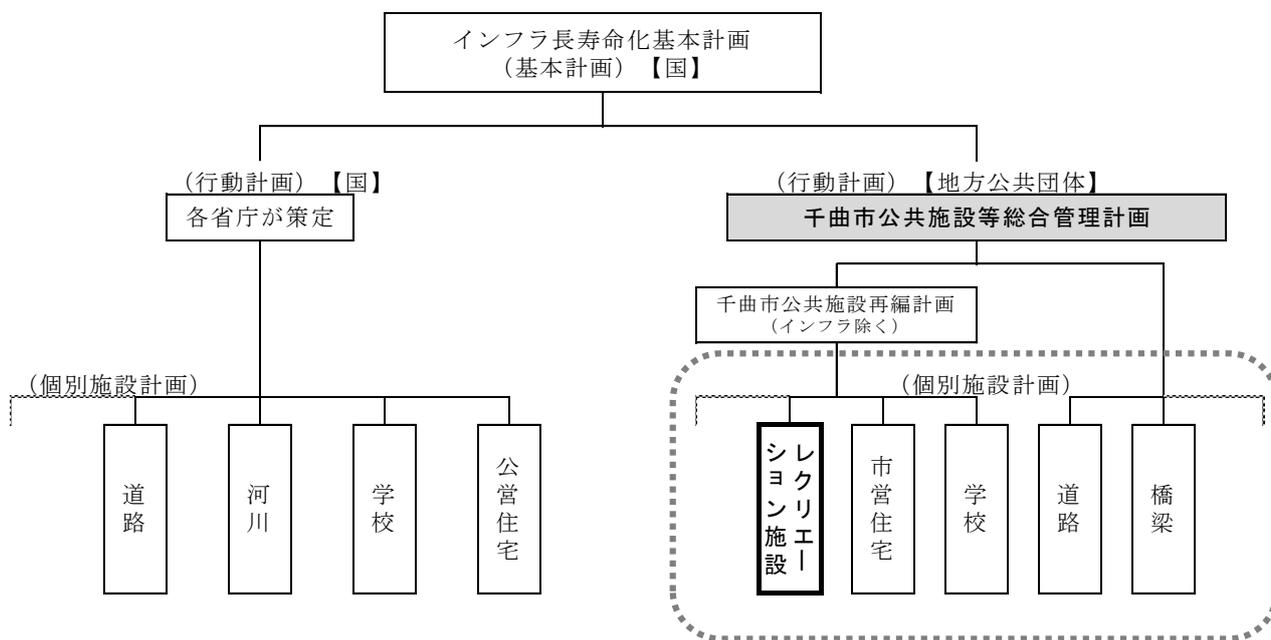
本市においても、公共施設等の総合的かつ計画的な施設の維持管理を進めるうえでの基本的な方針として「千曲市公共施設等総合管理計画」を平成 28 年 3 月に策定しました。

「千曲市公共施設個別施設計画 レクリエーション施設編①」は、「千曲市公共施設等総合管理計画」の基本方針に基づき、個別施設ごとの維持管理・更新等の対策の内容や実施時期などをまとめた計画として策定するものです。

(2) 計画の位置付け

本計画は、国の「インフラ長寿命化基本計画」を踏まえ、本市における公共施設の総合的かつ計画的な管理に関する基本方針として策定した「千曲市公共施設等総合管理計画」を最上位計画とし、総合管理計画と本計画とを橋渡しする「千曲市公共施設再編計画」を上位計画とします。

「千曲市公共施設個別施設計画 レクリエーション施設編①」は「千曲市公共施設等総合管理計画」と整合性を持つ下位計画であり、原体験の森宿泊研修施設及び坊城平いこいの森の具体的な施設計画を定めます。



2. 個別施設計画の対象施設、計画期間

(1) 対象施設

本計画は、本市が所有する公共施設のうち、以下のレクリエーション施設を対象とします。

No.	施設名	建築年月	経過年数	耐用年数	主構造	延床面積 (㎡)	備考	
1	原体験の森 宿泊研修施設	本館	S62(1987).3	37年	22年	W	1,904.60	
		浄水施設	S62(1987).3	37年	38年	R C	60.40	
2	坊城平 いこいの森	キャビン1号	H2(1990).3	34年	22年	W	131.92	
		キャビン2号						
		トイレ						
		キャビン3号	S62(1987).3	37年	22年	W	75.35	
		キャビン4号	H元(1989).3	35年	22年	W	37.67	
		管理棟	H2(1990).3	34年	24年	W	41.40	
		東屋	H2(1990).3	34年	22年	W	33.00	
		給水施設	H元(1989).3	35年	38年	R C	0.00	

※経過年数…令和6年4月1日現在

※耐用年数…「資産評価及び固定資産台帳整備の手引き(平成26年9月30日 総務省事務連絡)別紙3」及び「減価償却資産の耐用年数等に関する省令(昭和40年大蔵省令第15号)」により設定

※主たる構造…R C：鉄筋コンクリート造、W：木造



(2) 計画期間

本計画の期間は、令和3(2021)年4月から令和13(2031)年3月までの10年間とします。

3. 計画対象施設を取り巻く現状と課題

【原体験の森宿泊研修施設】

原体験の森宿泊研修施設は、野外での自炊を基本とし、豊かな自然の中での体験を通して「生きる力」を育み、未来を担う青少年の健全育成を目的として設置しています。

本施設は市内外の幅広い方々に利用されており、市内小学校のキャンプや本施設の主催事業の他、団体の合宿や研修、地域行事の場としての利用が多く見られます。利用者数につきましては、増減を繰り返しておりますが、一定数以上の利用者が毎年利用していることがうかがえます。令和元年度は市内 3,489 人、市外 1,924 人の利用がありました。

原体験の森宿泊研修施設 直近 5 年間の利用者数 (単位：人、() 内は宿泊者数)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
利用者数	7,292 (3,537)	5,562 (2,650)	5,608 (2,882)	6,450 (2,700)	5,413 (2,589)

供用開始から 30 年以上が経過していることもあり、老朽化が各所に見られます。小規模な修繕は本施設の職員で対応しております。職員で対応出来ない規模、または専門性を伴う修繕については、状況に応じて予算の範囲内で業者に委託して適宜実施しています。また、耐用年数はすでに経過しているので、柱や基礎などの外部から見えない主体構造の箇所についても検査や点検を定期的に行い、利用者の安全確保及び利便性の向上に努めています。

原体験の森宿泊研修施設 直近 5 年間の主な修繕等

年度	修繕内容
平成 27 年度	浄化装置原水供給ポンプ修繕 (オーバーホール)
平成 28 年度	非常用自家発電機 (自動電圧調整器) 修繕
平成 29 年度	宿泊棟 FF 暖房機点検 (分解清掃)
平成 30 年度	多目的ホール屋根緊急修繕 (南側軒撤去、板金巻)
令和元年度	非常灯交換修繕、電灯分電盤修繕、東テラス柱・床板修繕

【坊城平いこいの森】

坊城平いこいの森は、冠着 (姨捨) 山のふもとに位置する宿泊施設で、キャビン 4 棟、管理棟、東屋、炊事場、屋外トイレ、展望台をその施設として有しています。平成 20 年度以前には青少年研修施設として青少年山の家が設置されていましたが、平成 20 年度に老朽化により解体・撤去し、青少年研修施設としての機能を廃止しました。

本施設の利用者の多くは冠着山登山の玄関口として利用しております。利用者数につきましては減少傾向にあります。特に、水源の悪化により水道が使用できなかったこともあり、令和元年度には大きく減少しています。令和元年度は個人や教育関係以外の団体での利用が主で、市内 29 人、市外 59 人の利用がありました。

坊城平いこいの森キャビン 直近 5 年間の利用者数 (単位：人)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
利用者数	136	144	130	117	88

原体験の森宿泊研修施設同様、供用開始から 30 年以上が経過しており、また厳しい周辺の自然環境に晒されることもあって、より老朽化が著しいものとなっています。直近 5 年間には大規模な修繕はありませんが、全てのキャビンで修繕の必要な箇所が業者により指摘されています。

しかし、修繕を行う場合、建築物の建て替えと同様の大規模なものになってしまうため、指摘箇所について全ての修繕を実施することが困難です。そのため現時点ではそれらの危険箇所等に注意を喚起する表示を行うことに留まっています。

坊城平いこいの森 直近 5 年間の主な修繕等

年度	修繕内容
平成 27 年度	電線管修繕（倒木による）
平成 29 年度	遊具撤去、展望台塗装
平成 30 年度	屋外トイレ止水用ハンドル交換修繕

4. 対策の優先順位の考え方と施設評価

（1）優先順位の考え方

当市のレクリエーション施設は、生涯学習課が所管する「原体験の森宿泊研修施設」と「坊城平いこいの森キャビン」のほか、農林課が所管する「大池総合案内所等」と「大池バンガロー」があります。「千曲市公共施設再編計画」においてレクリエーション施設は「機能が重複し、利用者が少ない施設は総量縮減を図る」とされています。それぞれの施設利用におけるニーズに応じつつ、利用者の安全確保を最優先事項として施設の老朽化の状況を調査し、限りある財源の中で適切に維持管理を行うとともに総量縮減について検討していきます。

（2）施設評価

建物の経過年数、耐震性、劣化状況を調査するとともに、定期点検を実施し、不具合や危険箇所の早期発見に努め、利用者が安全に施設を利用できるようにします。

また、過去の利用状況から今後の利用進捗を算定するとともに、施設の稼働率・重要性を 2 施設間で比較考量のうえ評価を実施します。

5. 個別施設の状況等（基礎調査）

（1）劣化度・老朽化度調査

施設状況の的確な把握、改修等の時期の把握に加えて、目視による劣化状況の調査を実施し、施設の劣化・老朽化の状況を評価しました。

●原体験の森宿泊研修施設

①屋根

平成 18 年度に雨樋と雪止めの改修が、平成 22～23 年度に塗装修繕がそれぞれ実施されており、現状では問題ありませんが、今後の老朽化の状態に応じて修繕を実施していく必要があります。

②外壁等（施設外部）

平成 18 年度に外壁の釘浮きの修繕が行われています。現状では、多目的ホール南側の外壁が

劣化しており、隙間から雨漏りが発生しています。施設の老朽化を防ぐため計画的に予算を確保し、外壁の該当箇所の貼替修繕を実施する必要があります。

③室内（施設内部）

平成 22 年度に宿泊棟を中心とした廊下壁塗装修繕を実施しています。現状では問題ありませんが、今後の老朽化の状態に応じて修繕を実施していく必要があります。

④機械設備

ボイラーは自主調査項目リストにより所員が毎日正常運転の確認を行っており、また業者による年 1 回の点検も実施しています。火災報知機などの消防設備については、年 2 回の業者による点検を行っています。現状問題はありますが、今後の老朽化の状態に応じて修繕の実施を検討する必要があります。

⑤電気設備

非常用自家発電設備や宿泊棟暖房機の点検などを定期的の実施し、利用者の利便性の確保を図っています。現状では問題ありませんが、今後の各種設備の老朽化の耐用年数終了に対応した物品購入・修繕の実施を検討する必要があります。

⑥水道設備

平成 27 年度に水源からの供給ポンプの修繕を行っています。浄水装置については年 3 回、ポンプ等の送水装置と配水池・貯水槽は年 2 回の業者による定期点検を行っています。また、配水池・貯水槽については年 1 回の業者による清掃メンテナンスを実施しています。現状問題はありますが、今後の老朽化の状態に応じて修繕の実施を検討する必要があります。

⑦その他

平成 25 年度に宿泊棟前木製階段、令和元年度に東テラスの柱と床板の修繕を実施しました。いずれも長年風雨等に晒されたことによる腐食が原因として挙げられます。本施設の一部は、東テラスや非常口、宿泊棟への外階段や炊事場の各施設など半屋外となっており風雨等に晒される場所が多いため、それらの箇所の木材の腐食による老朽化への修繕対応が今後も定期的に必要なと考えられます。

●坊城平いこいの森

①屋根

キャビン 3 において雨漏りが発生しており、修繕を要する状態にあります。内部から見ると天井の壁紙が一部剥離し、染みができています。現時点で確認できているのはキャビン 3 のみですが、同環境にあり、施工年も近い他の 3 棟のキャビンについてもその状況を注視していく必要があります。

②外壁等（施設外部）

外壁は、毎年施設の閉所作業時に防腐剤のクレオソートを塗布することで老朽化対策としており、現状大きな問題はありません。しかし、キャビン 1 とキャビン 2 において入口玄関の床板が腐食しており、利用者にとって安全が確保できない状態となっています。

また、キャビン 4 においては入口左側のテラスが腐食しており、修繕を要する状態となっています。現在は立ち入り禁止の貼り紙により危険区域に入らないよう利用者に注意喚起を促しています。

③室内（施設内部）

年 2 回開閉所作業時に清掃を行っています。キャビン 3 においては前述の通り天井の壁紙が

剥離しており、雨漏りも確認されています。他のキャビンの室内については大きな問題は確認されていませんが、老朽化の状態に応じて修繕を行っていく必要があります。

④機械設備

消防設備（火災報知器）が各キャビンに設置されており、業者による年2回の点検を行っています。年1回の消防署の立入検査でも異状は指摘されておらず問題はありません。

⑤電気設備

定期点検時に毎回担当者が通電の確認を行っており問題はありません。しかし、過去に何度も倒木が電線を圧迫したことによる電気の不通や電気機器の破損が発生しているため、今後もその状況を注視していく必要があります。

⑥水道設備

業者による受水槽やタンク・各キャビンやトイレへの配管等の保守が毎年本施設の開閉所時に行われています。令和元年度の開所時の点検の際にポンプの故障と水源の著しい流入量の減少が指摘され、現在使用不可能となっています。水道の再使用にはポンプを交換し、湧水を水源となる貯水池に流入させる措置が必要となります。

⑦その他（キャビン以外）

東屋もキャビン同様に木造ですが現在問題はありません。今後の状態に応じて修繕等が必要になります。

本施設入口付近にある展望台は金属の塗装が剥けている部分が散見され、コンクリート製の階段の踏み板は雨後には非常に滑りやすく、利用者に危険が伴うものとなっています。現在は雨後の利用を控えるように注意喚起のための看板を設置するとともに、宿泊者へ渡すキャビンの利用案内にも看板同様の内容を追記しています。

また、平成20年度に青少年研修施設としての役割を有していた青少年山の家が老朽化を理由に解体、撤去されています。これにより坊城平いこいの森の研修施設としての面はなくなると言えます。また、本施設は木造であり、原体験の森宿泊研修施設と同様に風雨に晒される環境にあります。定期的な施設管理を行う職員が現地にいないため老朽化が進行しやすい状況にあると言えます。

6. 対策内容と実施時期（実施計画）

（1）再配置に関する基本方針

本計画の最上位計画である「千曲市公共施設等総合管理計画」において、「公共施設の総量縮減を行っていくうえで、旧更埴市、旧戸倉町、旧上山田町の合併による類似した機能を持つ公共施設の重複の解消が必要になる」と定めています。本計画の対象となる生涯学習課所管のレクリエーション施設である原体験の森宿泊研修施設と坊城平いこいの森については、青少年山を家の解体に伴い坊城平いこいの森が教育的要素を持った研修施設としての機能が失われています。現状、原体験の森宿泊研修施設と坊城平いこいの森の機能は異なっており、農林課所管のレクリエーション施設である大池総合案内所等や大池バンガローと合わせて考えた場合、坊城平いこいの森は、大池バンガローと機能が重複しており、その解消を検討していきます。

（2）保全に関する基本方針

原体験の森宿泊研修施設については研修施設としての機能が他の公共施設とは重複しておらず、また利用状況の推移から、市内の学校行事での利用や市内外の団体による利用がその数を大

(4) 対策費用 (R3~R4:決算額、R5:決算見込額、R6:当初予算額、R7以降:概算額)

【原体験の森宿泊研修施設】

(本館)

R3(2021)年度: 1,298千円 多目的ホール床修繕

R5(2023)年度: 7,879千円 多目的ホール外壁修繕(7,221千円)/エアコン設置(658千円)

(浄水施設)

R5(2023)年度: 318千円 残留塩素計修繕(282千円)、ろ過ポンプ修繕(36千円)

R6(2024)年度: 2,200千円 PLC交換修繕

R7(2025)年度: 17,000千円 水質計器更新工事

上記以外にも、適宜必要に応じて、大規模なものは予算化の後、小規模なものは需用費修繕料から支出して修繕を行っていきます。

【坊城平いこいの森】

(キャビン1号)

R7(2025)年度: 5,000千円 除却工事実施設計

R8(2026)年度: 50,000千円 除却工事

(給水施設)

R3(2021)年度: 1,687千円 給水施設ポンプ更新・水源自然水流入修繕(440千円) /
給水施設槽外部補強・槽内部被膜塗装修繕(1,247千円)

R5(2023)年度: 200千円 受水槽配管修繕

7. 今後の対応方針と本計画の実現に向けて

本計画の進行管理は、所管課である生涯学習課が行います。

生涯学習課は所管するレクリエーション施設の原体験の森宿泊研修施設、坊城平いこいの森の定期的な業者の点検等により施設の状況を把握するとともに、教育委員会において施設の保全及び用途を変更しての継続に関する本計画の進行を図っていきます。

また、改訂に関しては、「千曲市公共施設等総合管理計画」との整合を図りつつ、国の動向等社会情勢の変化を把握しながら5年ごとに見直しを行います。更に工程表は、計画尾実現性を高めるため、毎年度ローリングします。

毎年度の取組状況は、千曲市公共施設等総合管理計画推進本部において点検し、議会へ報告するとともにホームページ等で公表します。

千曲市公共施設個別施設計画 レクリエーション施設編①

令和3年3月策定（毎年度更新）

千曲市総務部財政課

〒387-8511 長野県千曲市杭瀬下二丁目1番地

TEL 026-273-1111(代) FAX 026-273-1004

E-mail : zaiseika@city.chikuma.lg.jp

(本計画を策定した課・施設所管課)

千曲市教育委員会 生涯学習課